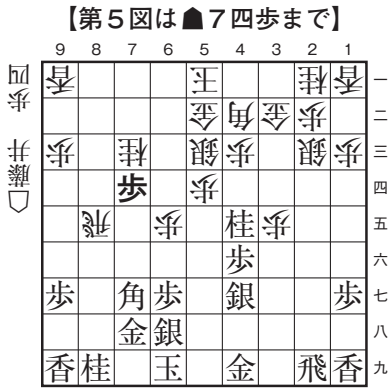
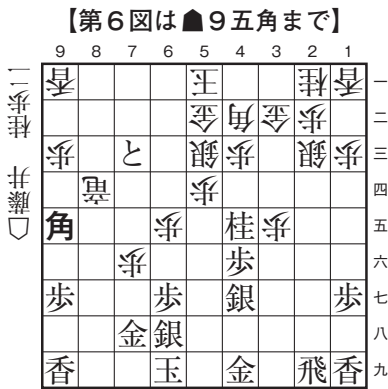


- ▲M5 一銀
- 同金
- ▲同金
- ▲同角
- ▲同角
- ▲6二角
- ▲8九飛
- ▲7五銀₂
- ▲3七金₁
- ▲5八金₁
- ▲5六桂
- ▲2六桂
- ▲3六歩
- ▲3二飛
- ▲2五玉
- △3三桂₄
- ▲5二歩成
- 同玉
- ▲同桂成
- 6四玉
- ▲7九歩₁
- 5五玉
- ▲5六桂₁₅
- 6四桂
- ▲同銀₁
- 8四歩
- ▲2四歩₂
- 3五玉
- ▲2九桂
- ▲2三飛成₅
- ▲同金
- ▲5三金
- 同玉
- ▲同玉
- ▲2三飛成
- ▲同金
- ▲5三金
- ▲同玉
- ▲9五角成₁
- 8六桂
- ▲8一桂
- ▲8六銀
- ▲7五銀₁₀
- 4四玉
- ▲4二銀不成
- 同金
- ▲3三飛成₃
- 2三金



- ▲3七桂
 - 2六玉
 - ▲2五金
 - ▲3五竜
 - 同玉
- ▲増田 歩二
- ▲消費時間▲4時間47分、○4時間59分
 ▲藤井のデビュー29連勝は世間一般にも強烈な印象を残したが、その29連勝目を喫したのが、本局の増田である。本局は竜王戦決勝トーナメントの2回戦。今後も何度も大舞台で対戦することが予想される二人だが、本局は意外な戦型になった。
- 【解説】▲7七銀（第1図） 〓「矢倉（の時代）は終わった」発言で有名になり、将棋界に衝撃を与えた増田が敢えて矢倉に誘う。当然、深い研究を予想させる。



- ▲B2 五歩 〓以前の矢倉は飛車先を保留するのが当然だったが、現在は先手も伸ばして急戦をおわせることが多い。
 - ▲C7三桂 〓奇抜な手に見えるが、コンピュータの影響で現代将棋ではよく見かける手。藤井将棋にはこのような早い桂の活用が多い。
 - ▲D6八銀（第2図） 〓機敏な手で、増田の作戦だったと思われる。○3一角から○6四角の前に▲4五桂から仕掛けようとする。
 - ▲E2二銀（第3図） 〓辛抱の手だが、「○3四同銀と指すべきだった」と藤井の感想（藤井の目を参照）。以下▲4四角○3三桂▲2四飛○2三銀▲同飛成○同金▲7一銀を警戒した
- ▲増田 桂歩三